

『野球規則を正しく理解するための野球審判員マニュアルー規則適用上の解釈についてー第4版』

2023年修正一覧

ページ	現 行	修 正	備 考
23	1 1845年に初の野球規則が誕生	1 1845年に初の野球規則が誕生 表の末尾に次の表を追加する。 2023 ● 先発投手に限って、打順表へ投手と指名打者の双方に同じ者が記載でき、その役割を果たせる規則が加わった。 ● 天候により試合が途中で打ち切られた場合について、正式試合として成立する前においてもサスペンデッドゲームを適用できることとなった。	2023 規則改正
30	8 着色バット	8 着色バット 第1パラグラフの一部を修正する。(下線部を追加) フレームテンパー(焼き加工)については、2018年のシーズンから、①バットの握り部分端から18インチ(45.7cm)より先端に施すこと、②塗装カラーではないので、その加工については、 <u>全面加工に限らず、一部だけの加工についても認められるが、表示が容易に見える濃さまでの焼き加工とすること。</u> ③それぞれの表示は焼印によるか、焼印の自然色または黒色とすることとされた。	2023 修正
97	54 指名打者 (Designated Hitter) 指名打者については、2011年の規則改正で詳細に、かつ箇条書きに分かりやすく規定されている(5.11(a))。指名打者を使うかどうか	54 指名打者 (Designated Hitter) 末尾に次のパラグラフを追加する。 2022年のOBR改正において、MLBナショナルリーグが指名打者制を正式採用したことに伴い5.11(b)に掲げられていた規則が不要となり削除となった。 新たな5.11(b)として、先発投手に限り、打順表へ投手と指名打者の双方に同	2023 規則改正

<p>かは、チームの任意である。以下省略。</p>	<p>じ者を記載でき、「別々の2人」として考え、その役割を果たせる規則が設けられた。</p> <p>この規則では、投手を退いたとしても、指名打者としては続けて出場できるが、再び投手としては出場できず、またその逆に指名打者を退いたとしても、投手として続けて出場できるが、打者としては出場できないとなっている。</p> <p>また、仮に投手と指名打者を同時に退いた場合についても、その後の交代する選手は投手と指名打者の双方を兼務することはできないこととしている。</p> <p>例題にて確認をしたい。</p> <p>先発投手：A、5番DH：A、救援投手：B、代打者：C、7番レフト：D</p> <p>※例題にあつては、条件としてAは投手として第1打者への投球、DHとしては1打席を既に完了しているものとする。</p> <p>例題7：投手Aに代わり救援投手Bが登板した。</p> <p>——Aは投手としては試合から退いたが、DHとしてはそのまま出場できる。</p> <p>(5.11(b))</p> <p>打順：5番DH：Aは継続、救援投手：B</p> <p>例題8：5番DH：Aの代打者としてCが打席に入った。</p> <p>——AはDHとしては試合から退いたが、投手としてはそのまま出場できる。</p> <p>(5.11(b))</p> <p>打順：5番DH：C、投手：Aは継続</p> <p>例題9：投手Aに代わり救援投手Bが登板したとき、監督がDHもBにすると申し出た。</p> <p>——できない。チームにおいて、先発投手自身が指名打者としても打つことができる本規定を採用することは、最初の打順表で記載するときのみできる。</p> <p>従って、DHはAが継続となり、必要であればDH：Aの打撃が回ってきた</p>	
---------------------------	---	--

		<p>ときにB以外の代打者を送ることになる。</p> <p>※Bを指名打者Aに代わって打席に立たせることはできるが、この場合、指名打者の役割は消滅し、(5.11(a)(10))、それ以後の選手の交代や打撃順の指名については、指名打者ルールを使用していないときと同じように進めていくことになる。</p> <p>例題 10：投手Aがレフトの守備につき、レフトのDに代わって救援投手Bが登板した。 ——投手AはDH：Aでもあるため、指名打者は消滅し、Aはもともとの打順を継続し、救援投手BはレフトDの打順を引き継ぐ。(5.11(a)(5)・(8)) 打順：5番レフトA、7番投手：B</p>	
111	4 “二段モーション”	<p>末尾に次のパラグラフを追加する。</p> <p>また、走者がいるとき、セットポジションをとった（投手板に軸足を並行に触れ、他の足を投手板の前方に置き、ボールを両手で身体の前方に保持して、完全に動作を静止した）投手がまず、軸足の踵を上げてから塁に送球した場合、投球動作を変更したものとみなし、「ボーク」とすることが、2023年2月8日のアマチュア野球規則委員会において確認された。</p>	2023 追加
113	8 投手のウォーミングアップの制限 最終パラグラフ なお、WBSC のイニング間ブレークルール(2019年版)の主な内容は・・・	<p>8 投手のウォーミングアップの制限 最終パラグラフを下記のように修正する。</p> <p>なお、WBSC のイニング間ブレークルールについては、2022年の大会では、イニング間は第3アウトが成立した時から90秒以内、投手の準備投球は8球以内、残り30秒以内で「ワンモアピッチ」となっている。カテゴリー（U12など）によっては異なる場合もある。最新のルールについては、WBSC の資料を確認されたい。</p>	2023 修正

185	<p>5 サスペンデッドゲーム</p> <p>現在、日本のアマチュア野球では、全日本軟式野球連盟だけが特別継続試合という方式で、サスペンデッドゲームのルールを準用している。「競技に関する連盟特別規則」で以下のように取り決められている。</p>	<p>5 サスペンデッドゲーム（一時停止試合）</p> <p>第1パラグラフに続き、次のパラグラフを挿入する。</p> <p>2023年の規則改正において、7.02(a)(5)サスペンデッドゲームに関する改正がされ、天候により試合が途中で打ち切られた場合について、正式試合として成立する前においても回数（イニング）や両チームの得点および得点の経過などに関係なくサスペンデッドゲームとして適用できることとなった。</p>	2023 規則改正
186	<p>6 タイブレイク</p> <p>その後、国際大会はもちろん、国内の大会でもタイブレイクの適用が主流となっている。2018年意向の各連盟によるタイブレイクの規程は次のとおりとなっている。</p> <p>WBSC：10回から、・・・</p> <p>社会人：10回または12回から・・・</p> <p>大学：10回から・・・</p> <p>高校：13回（国体及び・・・</p> <p>軟式：13回から・・・</p> <p>チームおよび個人記録・・・</p> <p>以下、省略</p>	<p>6 タイブレイク</p> <p>第3パラグラフの一部を削除する。</p> <p>その後、国際大会はもちろん、国内の大会でもタイブレイクの適用が主流となっている。2018年意向の各連盟によるタイブレイクの規程は次のとおりとなっている。</p> <p>WBSC：10回から、ノーアウト一・二塁、継続打順制</p> <p>社会人：10回または12回から、ノーアウト一・二塁、継続打順制</p> <p>大学：10回から、ノーアウト一・二塁、継続打順制</p> <p>高校：13回（国体及び明治神宮大会は10回）、ノーアウト一・二塁、継続打順制</p> <p>軟式：13回から、ノーアウト一・二塁、継続打順制</p> <p>チームおよび個人記録は公式記録となるが、・・・</p> <p>以下、省略</p>	2023 修正